

ギフチョウの累代飼育について

八 木 弘

☆はじめに

ちょうちょ、ちょうちょ葉の花にとまれ、葉の花にあきたら桜に、とまれ、昔から歌に唄われた、この歌に出てくる蝶は、モンシロチョウか？ギフチョウか？私は桜の開花に合わせて出現するギフチョウが一番相応しいと思う。黄色と黒のだんだら模様。裾に赤をのぞかせた粹な姿、夏・秋・冬の長い時期を蛹で過ごし、春先やっと眠りから覚めて蝶となり、花を訪れる様は、春の女神と云う形容が似つかわしい。蝶愛好家を一度は魅了させたギフチョウ、それだけに、よく調査研究され、飼育についても多く試みられていると思う。

生息地が低山地や、人家に近い山麓部に多いため、宅地造成、植林など開発が進み環境破壊による絶滅地も多いと聞く。この様な状態の中、乱獲に因る絶滅だけは避けたいと思う。頭数を多く必要とする向きは飼育によるべきと思い、初心者参考に成ればと飼育について、私の経験を記してみる。

☆累代飼育の試み

御存じの様に、累代飼育とは、飼育し羽化させた成虫を、室内で何代にもわたって飼育する事である。

私の試みは「初代の親蝶」昭和56年4月中旬、多可郡中町で採集した♀一頭の採卵から始まる。

☆人工採卵の準備

まず、捕虫網の大きさに合わせて、竹枠又は金枠を作り、捕虫網を架ける。鉢植えの食草「ヒメカンアオイ」コーラーの空き缶などに、葉の花や大根花などをさして、♀蝶といっ緒に網の中に入れる。

以上で採卵準備完了である。

置き場所は、窓際か、屋外の日だまりの暖かい所を選ぶ、産卵の条件は蝶が元気である事、晴の日で暖かいこと、15度C以上が望まれる。屋外に置く場合には風で網が飛ば無い様に、網の下部に石等の重しを置くことを忘れぬ様に。

給餌は、自ら中に入れてある葉の花等から呼蜜するが、一日に1〜2回霧吹きで水を網の上から吹き付けてやると良い。

花などの蜜源が無い時は、水を霧吹きで網の上から吹き付けると吸水を始めるから、小さく切った脱脂綿に蜜を浸し、ピンセットで吸水している所へ付けてやると、そのまま吸蜜する。

【参考】樹液などを好み花にこない蝶の給餌は、この方法が有効である。人工給餌の場合の「エサ」は、砂糖水、ハチミツ、カルピス、「果汁」パイン、リンゴ、ブドウ、トマト、西瓜、桃、等を与えてみた。

樹液などにくる蝶は果汁のほうが良いと思う。

余談が入ったが上記それぞれの方法で飼育し晴の暖かい日が1〜2日続けば充分産卵してくれる筈である。12度C以下では活動せず産卵は期待出来ない。

☆飼育要領

卵は産卵直後は、青白色で、孵化前に成ると、灰褐色に変わる。鉢植えの食草に産卵させた場合は、そのまま飼育箱に入れても良いが、私は、卵が灰褐色になると、卵の付いた食草をもぎ取り、弁当箱程度の大きさの「パック」で飼育した。この方が管理し易い。飼育用「パック」は女性用「ストッキング」を輪切りにして、ふたとし、天敵を防止する。もぎ取った食草の葉柄の切り口をぬれた綿で包み更に上からアルミ箔か、ビニールを包んでおくと長持ちします。食草が萎れてくれば取替えてやります。幼虫が4〜5齢になると分散を始めます。分散を始める頃になると、飼育箱を「ミカンの空きダンボール箱」に変えます。箱の上部は防虫網を掛けておきます。この時期から、幼虫の食欲は旺盛となります。一日に食べる量を見計らって、一日一回、又は朝夕食草をほり込んでやればよいわけで、ギフチョウの飼育は容易です。

幼虫が終齢近く「体長30mm」を越えた頃飼育箱の中に、割箸などを2本平行に敷き、その上に素焼きの5〜6号鉢を逆さにして置きます。別図1参照、鉢の下部に7〜8mmの隙間ができます。終齢幼虫は、その隙間から、鉢内に入り側面に付着して「サナギ」となります。飼育幼虫の多い時には途中で鉢を換え分離して管理します。万一の場合の安全のために。

ギフチョウは、元々、半ば地中に潜り込んで「サナギ」に成る習性があると言われているので、上記の様に鉢を伏せて内部を暗くしておく、恰好の場所として、全部潜り込んで「サナギ」となります。この様に鉢内で「サナギ」にして置くと、後の管理がし易くなります。

☆「サナギ」の管理の仕方

蛹期は夏・秋・冬を通し9か月にもおよびますのでその管理には充分の注意が必要です。

屋外の木陰などを選び土中にサナギの着いた鉢を埋め込みます。雨水が流れ込まないように、鉢の上部は20mm程地上に出しておき、サツキ用の浅鉢で覆います。鉢内にはなにも入れません。隙間が無い様に土盛して目張りします。別図2参照、鉢の水抜き穴は、防虫網を接着剤で張り付けます。真夏は、落ち葉などを掛けて熱気を避けます。土中の湿気が、素焼き鉢を通して、「サナギ」の乾燥を防いでくれますが、真夏の雨がなくて乾燥の激しい時は、時々冠水してやります。秋冬の季節にはあまり気にせず放置して於いても大丈夫です。

これで春先には100%の羽化も期待出来ます。

【注】土中に埋める適当な場所が無い場合は、箱などに土か、砂を入れその中に、鉢を埋め込むのも良いかも知れません。

☆羽化準備

3月も下旬に入ると鉢を室内に取り込み窓際の日がよく当たる所に置いてやります。蝶は、たいてい高い所にぶらさがって「ハネ」を伸ばしますから、ぶらさがる足がかりに、木の枝、割箸などを、鉢の中に立て掛けてやります。暖かい天気の良い日に羽化がはじまります。

飼育は一応これで終わりますが累代飼育はこれから始まります。

☆交尾

S57年羽化した蝶の交尾を試みる、その結果はつぎの通り

1. 3月26日羽化した♂と27日羽化した♀A
2. 3月28日羽化した♂と29日羽化した♀B
3. 3月28日羽化した♂と29日羽化した♀C

上記の3通りを試みる。

1. A蝶27日午後1時交尾…交尾時間約40分
2. B蝶…29日午後12時45分交尾…交尾時間約45分
3. C蝶…30日午前11時53分交尾…交尾時間約50分

上記で見るかぎり条件が良ければ、♀蝶の羽化した其日内に、交尾を済ませる様。

注・採卵の時と同じく捕虫網の中に吸蜜の花と♂♀ペアで入れ窓際に置いて試みた。

☆採卵

人工採卵の項で前述した要領で「1 A蝶」と「2 B蝶」で採卵した。

4月1日 A蝶16卵 B蝶10卵

4月2日 A蝶13卵

4月5日 B蝶19卵

「B蝶の産卵3日間の空白は、天候不順によるものです。

その後の孵化、飼育、サナギの管理は前述の通りで

す。後は来春を待つのみ。

S58年

1. 4月5日羽化した♂と4月6日羽化した「♀A」
 2. 4月6日羽化した♂と4月7日羽化した「♀B」
- 上記2通りを「ペア」として交尾を待つ。

☆交尾

1. 「♀A」蝶…6日午前10時30分交尾
2. 「♀B」蝶…8日午後1時15分過ぎ交尾

☆採卵

採卵は「♀A」蝶のみで行った。

8日…2卵 9日…15卵

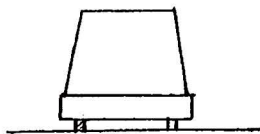
以上の産卵を見たので、一応の目的を果たしたものととして、その後の飼育を打ち切った。

☆あとがき

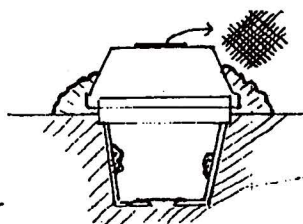
ギフチョウの累代飼育の成否は天候に左右される面が多い。その為、交尾、産卵に適した気温を得るために、羽化の時期を遅らせ、暖くなる桜の開花時期に合わせる工夫も必要だ。

私の試みでは、S57年度の羽化は3月26日から始まっている。此れは3月下旬に「サナギ」を室内に取り込んだ場合である。S58年度は4月5日から羽化が始まっている。S57年度と比べ、10日間遅れている。此れは「サナギ」を室内に取り入れず、屋外で羽化させたからである。この様に出来るだけ暖かくなってから羽化させると、交尾、産卵の条件が調えやすい。何れにしても、羽化、交尾、産卵を終らせるには少なくとも10日間は、成虫を元気に飼育することである。此れから飼育される方の少しでも参考になれば幸いです。

参考図(1)



参考図(2)



〈参考文献〉

森内茂・永井正身 著 昆虫の飼い方1

HIROSHI YAGI

相生市